



大森六中だより

令和6年 11月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

六中だよりはHPからも
ご覧いただけます。



何故、人は感動するのか

私事ですが、作家池井戸潤さんの作品をこれまですべて読破している私が、遅まきながら最新刊の「俺たちの箱根駅伝」上下巻を最近読みました。池井戸さんの作品は、その多くがご自身の銀行員時代の経験を踏まえた、銀行員を主人公にする作品ですが、この作品は箱根駅伝の出場を期して予選会に臨んだものの、惜しくも本戦出場を果たせず、結果学生選抜のメンバーとして出場することになった選手と、箱根駅伝を実況するテレビマンに脚光をあてた作品でした。上下巻という長編ですが、さすが池井戸さん、場面場面がリアルに想像できる文章力で、飽きることなく読み進めることができました。そして、終末では、読みながら滂沱の涙を流すこととなりました。

なぜ、それほどまでに感動することになるのか、それに通じるものが、文化祭の合唱にありました。

10月26日に開催された本校の文化祭では、何と言っても学年合唱とクラス合唱に最も感動します。学年合唱は圧倒的な声量により、学年が上がるにつれて迫力ある歌声を聴かせていただきました。

そして、各クラスの合唱は、それぞれピアノのBGMに載せて、代表生徒が今日に至るまでの様子と今日の意気込みを話し

す。始めはまとまりのない歌声が、当日が近づくにつれて、聴く人に良い歌声を届けたいという気持ちが、クラスをまとめ、その心が美しいハーモニーを奏でました。聴く人は、そのクラスの努力の足跡を想像しながら、合唱を聴くことで、より大きな感動を得られるのだと思います。

十人十色の歌声を美しいハーモニーに変えるためには、それぞれが他者を敬い、他者を思いやらなければ生まれません。その点で、やはり3年生の歌声は格別でした。それは、心身の成長とともに、過去の上級生の歌声に憧れる気持ちの強さに比例するのも知れません。

この文化祭の合唱を、過去のコンクール形式に戻しては、とのご意見をお持ちの方もいらっしゃると思います。しかしながら、本来、合唱は聴く人を感動させたという思いが大切であって、競い合うものではないと考えます。競い合いが生じると、金賞を獲ることが目的化してしまい、聴く側は純粋な感動を得られないと私は考えます。

今年の文化祭も実行委員等による献身的な準備と運営により、スローガン「奏音（おとをかなでる）」のとおり、素敵な音を聴く人に奏上し、素敵な発表や演技、演奏を加えて奏功しました。感謝致します。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

シビック・アクション×おのお知るまちプロジェクト

10月27日（日）に、大岡山北口商店街で「大岡山の好きを発見する七日間」というイベントが開催され、令和5年度の平和問題チームと令和6年度の科学チームの代表生徒が発表を行いました。



イベントを主催した「おのお知るまちプロジェクト」は、東京科学大学（旧東京工業大学）の建築学系の学生によって運営されている学生団体です。昨年度のシビック・アクションで、東工大とのコ

ラボレーションをしたいと考えていた平和問題チームの希望をかなえるために、学生団体の皆さんが商店街でのイベントに招待してくださいました。当日はイベントを知っていて来てくださった方だけでなく、買い物に来た地域の方も足をとめてくださり、六中生の取り組みに耳を傾けてくださいました。

発表時間の枠にゆとりがあるとのことで、今年度の科学チームからも1グループ発表をさせていただきました。今年度はシビック・アクションの取り組みが今後も実りあるものになるよう、今後も進めていきたいと思ひます。

今月の行事報告

後期生徒総会

10月11日（金）に後期生徒総会が行われました。前期委員長は前期活動の説明をした後、握手をして後期委員長へ引き継ぎました。後期委員の認証式に続き、後期委員長からの後期活動計画の説明と、議案書討議であがった質問や要望に対する回答が行われました。壇上で堂々と話をする委員長やその話を真剣に聞く生徒に、六中をよりよくしていくとする意識の高さが見られました。



文化祭

10月26日（土）に文化祭が開催されました。今年度のスローガンは「奏音～成長の先に～」。校長先生から「奏」には「奏でる」の他に「奉る」つまりもてなすという意味と、「奏効」の成し遂げるという意味があるという話がありました。まさに、各クラスは本番まで懸命に努力を重ね、心を込めて表現し、聴く人の心を打つ合唱となりました。



また、英語でのスピーチによる海外派遣生徒発表、常に会場の全員を引きつけた演劇部の公演、手拍子で会場も一体となった吹奏楽部の演奏と、舞台発表も大変盛り上がりを見せました。

コロナ禍以降初めての全校生徒が集まったの開催となり、準備から当日まで活躍した文化祭実行委員や中継を行った放送委員など、多くの生徒が力を合わせ、充実した文化祭となりました。

